主催: Japa 日本専門家活動協会

専門家個人が専門家として 居場所を得て活躍できる社会づくりをめざして 2015

開催日時:2025年05月14日 17:25~21:00

開催場所:NEC三田ハウス 芝倶楽部303号室

- 17:25~17:30 開会挨拶
- 17:30~17:40 参加者紹介
- 17:40~19:40 発表(@15分)& 討議(@15分)
 - 1. (一社)日本シニア起業支援機構: DX化による地方創生~陸上養殖・スマート農業~
 - 2. (一社)レジリエンス協会:地方創生における国際標準導入と住民意識調査の提言
 - 3. (一社)チームまちづくり:ふるさと納税を活かした空き家対策・地方創生
 - 4. (一社)日本建築まちづくり適正支援機構:良質な建築、美しいまちづくりを如何につくるか?
- 19:40~21:00 全体意見交換 with 飲食

Copyright © Japan Association for Professionals' Activities. All Rights Reserved

Japaの活動の3つの柱

- 1.専門家の知のアーカイブ:収集・蓄積・共有・創発・発信
 - 分野を超えた"新結合"による「知のイノベーション」を起こしつつ、専門家としてのアーカイブを残す
 - Japa Newsletterの発行 → 今年度より、寄稿等を外部の情報発信サイト「経済レポート情報」にも掲載
 - 提言・報告の発表
 - HPの<mark>「知のアーカイブ」</mark>ページの拡充
- 2.専門家の交流・連携(つながり)の拡大連鎖
 - 個の専門家(個人/コミュニティ)を超える社会的影響力「コレクティブインパクト」を発揮する
 - 連携団体の拡充
 - フォーラム(年2回)・交流会(今年度より、適宜)等の開催
 - 連携団体等との共創によるProject創発:古民家活用、ハイブリッド型まちづくり 等
- 3. 専門家の活躍の場の拡大
 - 専門家が個人として活躍できる仕組みづくり・場づくりを促進し、もって専門家の自立・地位向上を図る
 - 地方創生の実践場の維持:大磯コンソの設立・運営、市民主導型MaaS等の導入に向けて
 - 市民主導+専門家ファシリテート型社会的合意形成場「知恵ラボ」の仕組み・ツール開発・運用
 - 専門知のマッチングサイト<mark>「専門家サービス3.0」</mark>の運用
 - 研究開発/社会実装型<mark>公募</mark>(産官学連携)の支援・協力 ⇒ 地域実装支援
- 4. その他、本会の目的達成に必要な活動
 - 「COVID-19」(アーカイブサイト)の開設・維持
 - 市民向け勉強会 等

「Japa交流会」の開催趣旨

- ■Japaとして、これまで「Japaフォーラム」を開催(年2回)
 - 論点提起者(1名)による発表を受けて、参加者全員で討議し、その後、 懇親会という形式で開催。2018年7月第1回以降、これまでに21回開催
- ■今年度より、フォーラムとは 別途、特定テーマに関し、関心を有する連携団体等を中心として、「Japa交流会」の開催(適宜)を行うことこととした。
 - 今回が第1回目
- ■第1回のテーマ:「地方創生に資するまちづくり」
 - 各団体の企画・実践中の事業・Project・講座等の相互紹介、意見交換
 - 各団体のメンバー をリアルに知り、今後の連携のきっかけ等につなげる
 - 交流会のテーマ・関係者・関心者発掘
- → つながりの拡大・連鎖 → コレクティブインパクトを興す

Copyright © Japan Association for Professionals' Activities. All Rights Reserved.

3

参考:「コレクティブ・インパクト」をいかに興すか

- 地域課題は包摂的なアプローチによるソリューションが必要とされ、<mark>個別単独の</mark> 組織/コミュニティや個人による取り組みだけでは限界がある。また、それぞれの 主体/コミュニティのユニークさ故に、他との連携が難しいことも少なくない。
- こうした状況をブレイクスルーするために、<mark>自律した</mark>個・団体・コミュニティが <mark>ゆるやかに</mark>有機的につながり、かつ<mark>参加者/関心者等を巻き込みながら拡がってい</mark> く「新たな結合=イノベーションの源泉」を励起し、課題解決・Goal に向けて、 各主体が持ち味を活かした機能分担/相互作用を行いつつ、コレクティブ・イン パクト (Collective Impact) を生み出す仕組み/場を如何にして実現していくか が課題



ない

各セクターが個別に活動をしているため、 目の前の課題の対応に追われ、地域・社 会レベルでの抜本的な変革や解決に至ら ない 構造化された枠組みや共通のビジョンを 軸に連携し、それぞれの真価を発揮して シナジーを生み、ダイナミックに変革を 推進している

コレクティブ・インパクト

出典:現場視点で広げるサイエンスコミュニケーターの可能性 2022.04.15 JST tps://tinyurl.com/25eguokp

難しく、それぞれの真価を発揮できてい

4

思案:地域課題への2つのアプローチと発表テーマの関係

コミュニティ[市民(住民・就業者・企業・団体・大学等)] 域外関係者/関心者(個人・企業・団体・大学等)

市民主導の集合知に基づく社会的合意形成・活動/Project推進アプローチ

日本建築まちづくり適正支援機構

チームまちづくり

コミュニティ維持
「つながり・担い手確保」

自然・歴史・文化の承継 未利用施設・空間管理 「空家・放棄地・山林保全活用」

社会的孤立・孤独地域包括ケア

相続

二地域居住/移住

包括ケア 群・エリアマネジメント人口減少・高齢化・個対応 ボー

治安・環境

子育で/教育環境 / 稼げる職種人材育成 企業/本社機能移転

[社会システムリデザイン]

広域連携

リノベーションモビリティ確保

働く場・財源確保

[産業興し・地域循環経済化]

経済的自立・政策的自律

社会インフラ維持・防災 「レジリエンス向上]

J-SCORE

レジリエンス協会

行政主導の公的合意形成・政策推進によるアプローチ

基礎自治体

Copyright © Japan Association for Professionals' Activities. All Rights Reserved

_

各団体による発表